

審査委員会奨励賞

主催：一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構

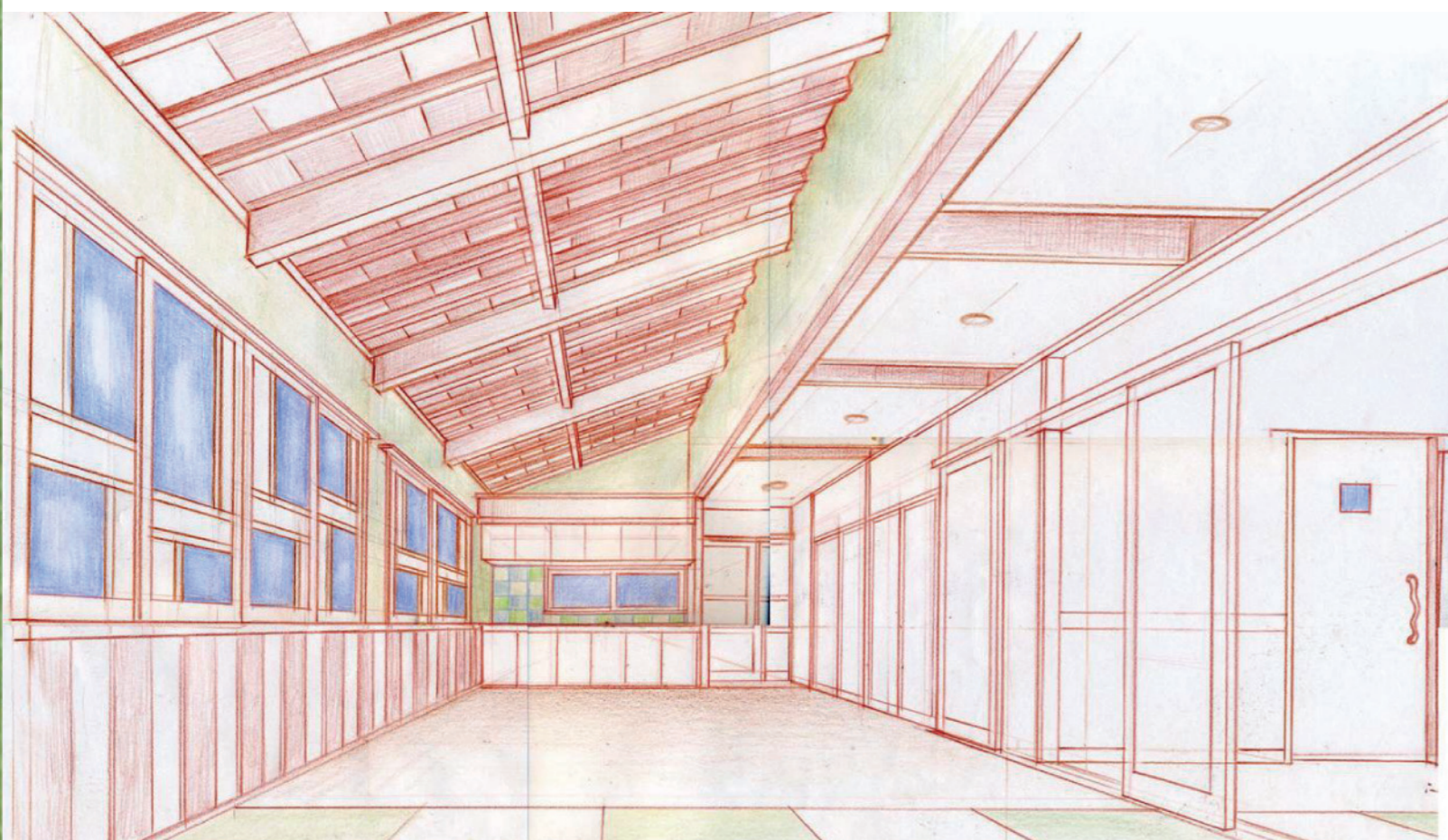
ゆいクリニック

住まいの居心地を医院に、そして医心を住まいに

病院らしくない診療所と健やかに暮らせる和やかな住まい。そして、自然分岐をするお産の家にふさわしい、自然と寄り添う建築のありようが求められていた。生活密度の濃い施主のライフスタイルを拝見して、小さなスペースを最大限に活かして使う空間利用の独自性に着目した。

インドの古代医学アユルヴェーダによれば五元素からなる人体は風と火と水の三つの気質で表現することができる。同様に、風と光と水のバランスを図ることで建築の特質を見極めることができる。

お産の家は病院のような冷え冷えした空間ではなく、家庭的な雰囲気であらうように、そして「住まいが病いの原因をなっていないか(シックハウス症候群)」という問いに答えるように、風と光と水を巡らせ自然との調和をデザインに反映させる。



エクササイズルーム・スケッチ

スペースをつなげて広く多様に使いこなせるように、木造空間=和の特色を活用空間を組み合わせて使うことで利用価値を高め密度の高い生活空間を目指す。簡素で柔らかい雰囲気と和めるように漆喰と無垢の木をベースに古くて新しい空間構成を試みる。



住宅のリビングのような待合室



入院室

分娩室とナースステーション

居間を中心に引き戸で部屋をつなぐ

漆喰や無垢の板などの自然素材で構成する室内
床はフローリング材に自然オイルを塗り、琉球量を敷いて子供や妊婦が自由にくつろげるように。畳の視線で見るとものが良く片付きネットでクリーンなスペースを保ちやすい。壁は赤土と月桃の繊維を混ぜた沖縄漆喰をベースに場所に応じて腰板を巡らせる。月桃はその成分が抗菌作用を持っているため殺菌効果も期待できる。天井はモイス張りか板張り、もしくは漆喰塗り吸湿、吸音効果を高める。建具は木製の引違ガラス戸を採用して風と光が良くめぐるように、全体として和の特色を活かし、簡素にして多様な空間利用ができるように考えた。



入院室

待合室の畳コーナー

子世帯の居間



ひび割れの少ないコンクリート打ち

▲総勢50人がかかわったコンクリート打ち
・岩瀬式再振動工法を取り入れる
・コンクリート強度30、スランプ12

再振動工法はコンクリートの強度を高めるために細心の注意が必要、時間と人手を要する。打ち出しコンクリートの表面は液体ガラスを塗布、さらに耐久性を高めている。丁寧にコンクリートを扱うことは素材をより身近に感じることができ、クリエイティブな表現の可能性を高め、ひいては感受性を育んでいく。

↑食わず芋の葉のレイヤーがあるペーパーメント

天井換気口
周辺の自然を象ったレイヤーが建物の外周に巡らされている

コンクリートスラブ下の断熱素材
硬質ウレタンフォーム70厚

◀赤土モルタル屋根断熱
(土、石灰、砂、石灰石粉、再生ガラス軽石、セメント等)
50~70厚 2回塗り

◀和小屋&沖縄の民家風板壁
(ウレタンフォーム+タテ羽目板張り)

モンゴル式土壁
杉板木舞30×10、3段組みの上、厚40赤土モルタル塗り



風水的視点からの発想

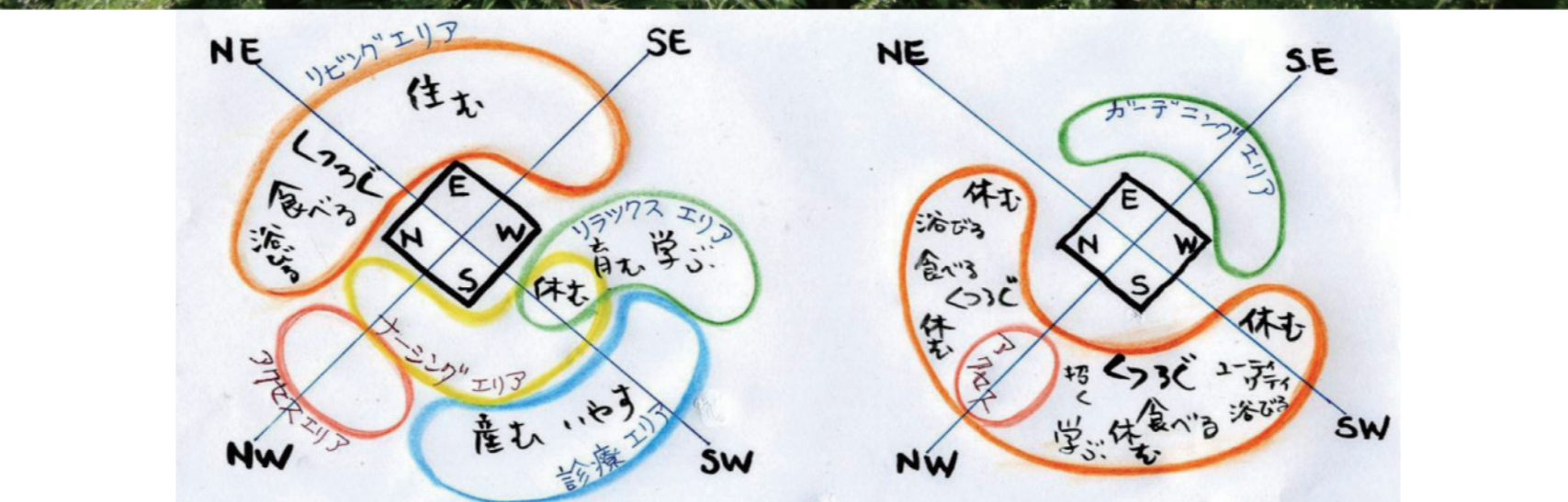
敷地は南西の方角から北東に向かってなだらかに傾斜している。インド風水によれば地勢によって地磁気の流れが変わる。南西が高く北東が低い地形は気の流れが良好で、東に開かれた家の構えが良い。一方、中国風水によれば南向きの地勢と家の構えが良いとされる。双方の吉相をヒントに診療所と住宅の間取りを考えた。そして風と光と水のめぐりの良い状態を間取りに反映させる。

ゆいクリニックの建築デザイン

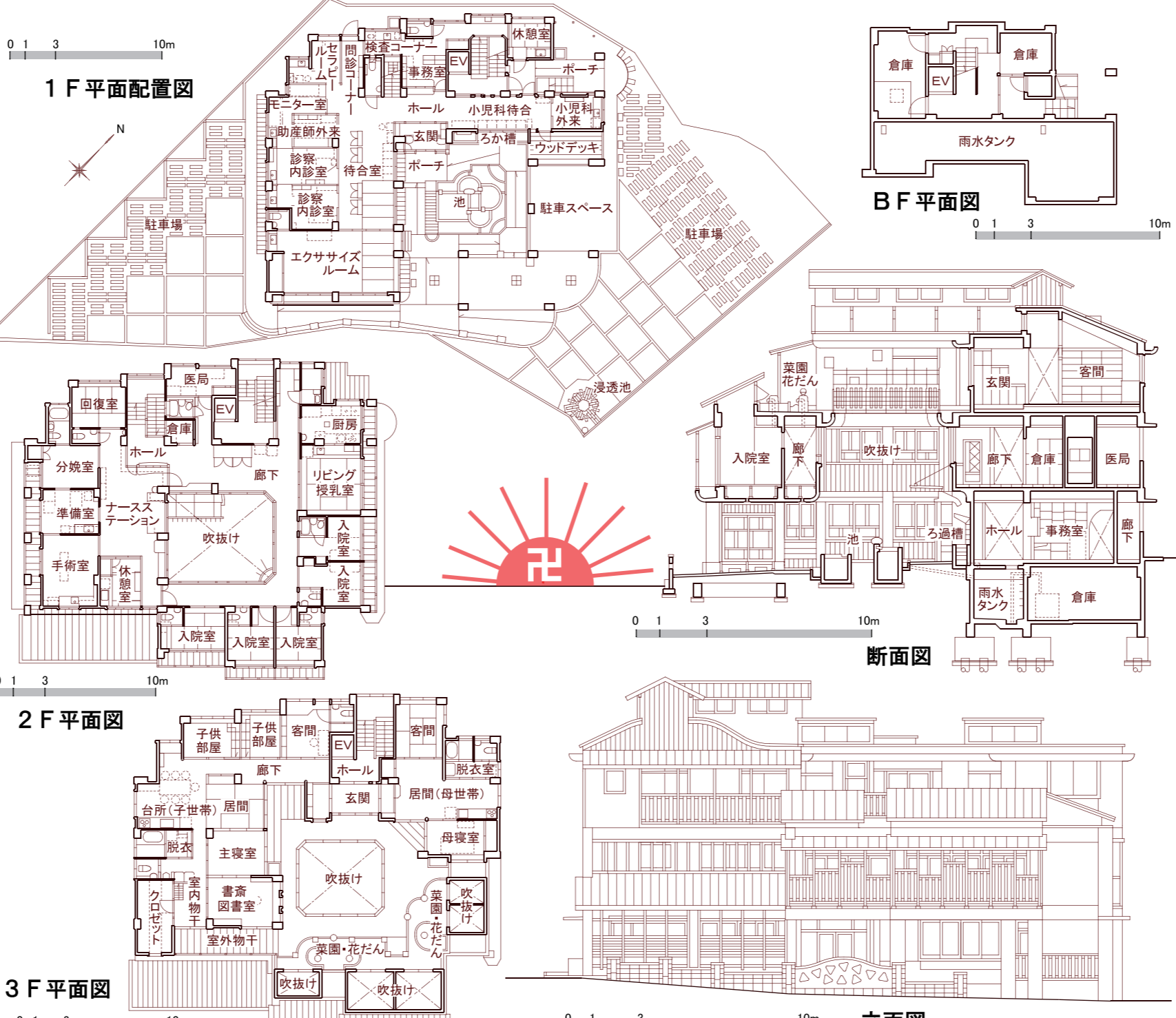


自然をまとい、気を養うホーム

命のつながりを大切にする理想の場をつくることは創造行為としての建築の役割に欠かせない。よく使われることによりあらゆるものの存在価値を高めるとともにコミュニティを再生する力を秘めている。



ゾーニングと間取り:人の動きと建物の方位



1F平面配置図、2F平面図、3F平面図、断面図、立面図



風水筒の提案

建物の中心に吹き抜け空間を配して、風・光・水をめぐらす。省エネ=エコの生活水:生命のシンボルである水が中庭空間を演出する(水の音、水面のきらめき、水辺の植物、雨水ろ過、etc) 光:ガラスの回廊をめぐり優しい光の波 風:大きな吹き抜け(4*5m)は屋上の庭にさわやかな風を届ける。



▼雨水ろ過装置

雨水利用・水循環のシステム
屋根から流れる雨水を4カ所の濾過槽で受け、地下タンクに貯水し、(約40ト)トイレ、洗濯、掃除、洗濯の一部、庭の散水に活用している。その一は中庭の池につながり、池の中を巡らせれば外の空気を取り込み再び浄化されて貯水槽へ帰る。雨水は庭の景観を作り、流れる水の音を楽しむことができる。池の一部は田んぼの土を入れて蓮や田芋を植えられるようになっており、メダカや金魚がおよいでいる。



屋上菜園

風水筒の上は屋上庭園。庭の菜園は家族のコミュニケーションの場。コンクリートスラブの上に突き出した換気塔も庭の一部に組み込まれて照明台になっている。

ガラスの回廊をめぐる光の波



中庭を囲む二階の回廊は木製の窓を通して光と風を巡らせる。目に優しい光を感じられるように色ガラスを混ぜ合わせて配色する。外と内、部屋と部屋の仕切りはスライド方式にして自由に調節できるようにする。熱や湿気を上部に逃がす工夫として吹き抜けや高窓を利用する。



↑光窓から中庭を見る



↑室内物干しと高窓

建築概要

建築主 設計者 施工者
ゆいクリニック アトリエ・ガイ 棚原組

建物用途 所在地 構造 階数 延べ面積 竣工年月 総工事費
戸建2世帯、診療所併用 沖縄県沖縄市登川 RC造・一部木造 地下1階・地上3階 824.65㎡ 2011年11月 約16000万円

いろいろな素材を使って外の熱を遮断、内外の環境を整える